

1. 科目名（単位数）	学校看護学特論	3. 科目番号	EDMP5513 EDMP5533
2. 授業担当教員	【池袋】石垣 久美子 【名古屋】宋 暁鈞		
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	【池袋】 秋期 【名古屋】 春期
6. 履修条件・他科目との関係	大学学部において養護教諭免許状を取得しており、看護学についての基礎知識を習得していることが望ましい。		
7. 講義概要	学校における看護は、心身の健康の保持増進から命に関わる症例まで、実に幅広い健康レベルを対象としている。また、児童生徒の抱える健康課題が多様化・複雑化している昨今、「チームとしての学校」と家庭、地域、専門機関との連携がより一層強調されるようになった。すなわち学校看護という枠組みにおいても、養護教諭のリーダーシップのもと、子どもを取り巻く生活環境を含めた総合的な健康支援につなげていくことが期待されていると言える。本科目においては、児童生徒の心身の発達過程における看護の理念の重要性に着目し、学校に特化した看護のあり方について深く考察する。また、学校の教育活動の一環としての看護のあり方について議論することを通して、保健室や養護教諭の視点を大事にしながらも、学校全体や地域といったより広い視野からの看護支援について検討する。		
8. 学習目標	①代表的看護理論からその本質を捉え、学校という環境に特化した看護のあり方を説明することができる。 ②学校看護の構造について理解し、児童生徒の発達段階や健康課題の特徴を踏まえた看護のあり方について説明することができる。 ③学校看護は、養護教諭をはじめとする学校内外のさまざまな人的資源、社会的資源との連携、ネットワークの中で成り立っていることを理解することができる。 ④学校現場で遭遇する救急事例の分析を通して、症例に対する看護実践を理論的に説明することができる。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	5回、8回、10回、11回、13回、14回の【学習の課題】にある課題でレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】講義内容に合わせて適宜資料を配布し、文献を紹介する。 【参考書】中桐佐智子他編著『最新看護学』東山書房、2011 岡田加奈子他編著『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護』東山書房、2012 藤井寿美子他編『養護教諭のための看護学』大修館書店、2008 鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社、2014		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ①代表的看護理論を踏まえ、学校という環境に特化した看護のあり方を説明することができたか。 ②学校看護の構造について理解し、児童生徒の発達段階や健康課題の特徴を踏まえた看護のあり方について説明することができたか。 ③学校看護は、学校内外のさまざまな人的資源、社会的資源との連携、ネットワーク（環境）の中で成り立っていることを理解することができたか。 ④学校現場で遭遇する症例に対する看護実践について、理論的に説明することができたか。 ○評定の方法 ・日常の授業態度（発表態度、討論参加状況）等50％ ・レポート・課題提出50％		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は、学部で学ぶ実践論や技術的演習、養護・看護臨床実習等の現場体験を土台としながら、より学問的視座から学校看護学を追究する。保健室での救急処置の方法論に終始せず、社会福祉や臨床心理学の理論、公衆衛生の学発想など、より広い角度から議論することを期待する。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	児童生徒の健康問題と学校看護の課題①		
【学習の目標】	児童生徒の現代的健康課題を踏まえ、これからの時代の学校看護のあり方やその課題について検討する。		
【学習の内容】	代表的看護理論から看護の本質を理解し、環境との相互作用の中で子どもの心身の健康の回復、成長、発達が促進されることを理解する。また学校看護における、学校内外の人的、物的、制度的資源の重要性について検討する。		
【キーワード】	ナイチンゲールの看護覚書（患者—環境相互作用）、自然治癒力、ヘルスプロモーション、社会的資源		
【参考文献】	鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社、2014		
【学習する上での留意点】	学校看護のリーダーである養護教諭や保健室の視点を柱としながら、学校組織や地域との関係性にも目を向け、より広い視野から看護について考察する。		
2. テーマ	児童生徒の健康問題と学校看護の課題②		
【学習の目標】	学校救急看護の課題を検討する。課題を明らかにするにあたって文献の見方や調査研究の方法を学ぶ。また、レポートの書き方を学ぶ。		
【学習の内容】	小・中・高校での各自の経験や、病院実習、養護実習等を話題にして救急処置・看護の課題・問題点を検討する。文献ではどのようなになっているかこの15回を通して明らかにしていく。		
【キーワード】	救急処置・看護、学校現場での実態調査、文献調査方法、レポートの書き方		
【参考文献】	村上陽一郎『新しい科学論 「事実」は理論をたおせる』講談社、2001 荻谷剛彦『知的複眼思考法』講談社、2006 酒井聡樹『これから論文を書く若者のために』協立出、2004 山崎茂明『看護研究のための文献検索ガイド』日本看護協会、2005 天野敦子・中村朋子・山崎隆恵他『養護教諭の研究能力に関する研究』日本養護教諭教育学会誌.3（1） 9-46 2000		

中島敦子・津島ひろ江『学校救急処置における新人養護教諭の困難感—頭部外傷事例から—』 日本養護教諭教育学会誌 15(1)33-43 2011	
3、4. テーマ	学校看護の構造（保健事業・管理運営・保健行政）
【学習の目標】	学校看護学の中で学校救急看護の構造を様々な側面から検討する。
【学習の内容】	1) 事業・サービス（救急処置や看護、医療的ケアを行う。それに伴う保健指導や健康相談を行う。安全教育・安全指導等を行う） 2) 管理運営・マネージメント（学校内で1）を行うために教職員個人、組織について、救急処置や看護を行うための予算、施設・設備を準備する、研修会などの計画等） 3) 学校外の行政・制度等（救急看護に関係する行政・法律、研修、ガリキュラム等）。
【キーワード】	救急処置・看護 医療的ケア、保健指導 救急処置計画・予算
【学習の課題】	現在の学校保健の構造の中で学校救急看護が十分に行えるか検討する。
【参考文献】	三木とみ子他『保健室経営マニュアル』ぎょうせい、2008
【学習する上での留意点】	学校保健や学校看護の中での位置付けを検討する。
5. テーマ	学校看護の対象と、生じやすい健康課題の特徴
【学習の目標】	さまざまな健康状態にある児童生徒のけがや疾病異常について、学校で多発するものや疾患特有の急変状態について知り、その対応も含めて説明できるようになる。
【学習の内容】	1) けがをしたり、頭痛・腹痛等で具合が悪くなった児童生徒 2) 慢性疾患を抱えている、あるいは既往歴のある疾病の急変や具合が悪くなった児童生徒を対象とする。特に慢性疾患を抱えた児童生徒について検討する。
【キーワード】	けがや疾病異常の水準による健康問題の種類や性質
【学習の課題】	特に慢性疾患（アレルギー疾患、心・腎疾患、呼吸器系疾患等）を抱えた児童生徒が急変しやすい健康問題とその対応について、疾患を2つあげレポートを提出する。
【参考文献】	大塚睦子『障害児に学ぶ教育の原点 養護教諭 35 年の実践から』農文協、1994 D.ロジャース小倉学・中村 朋子訳『養護教諭と学校救急—文献紹介 健康教室 213 集』35-41 1968 中村朋子・樋口真理子『病弱養護学校における主体的健康管理について』茨城大学教育学部研究所紀要 23 1991 鎌田文代・中村朋子『肢体不自由養護学校における医療的ケアに関する研究』茨城大学教育学部紀要 51 2002 福田博美・中村朋子他『学生への医療的ケアの指導方法の検討』愛知教育大学障害児治療教育センター 治療教育学研究 27 73-79 2007
【学習する上での留意点】	健康問題は身体面、精神・心理面、社会面等多岐にわたることを考察できるようにする。
6. テーマ	学校における看護過程の特徴
【学習の目標】	学校看護の過程とそこに関わる人々について考察する。
【学習の内容】	1 問題・病態・傷害態の事実判断⇔2 どんな問題か・問題の程度、問題の意味⇔3 救急処置・看護の決定 ⇔4 処置ケアの実際・保健指導・経過観察・健康相談・校内、校外の連絡、受診等⇔5 救急処置・看護活動後の学校保健活動・学校保健教育と管理・学校安全教育と管理⇔6 学校救急処置の全体的評価。このように6段階の過程があり、それぞれが双方向になっていること理解する。 それぞれの活動過程で養護教諭は児童生徒、その担任、保護者、部活動の顧問、校医、医療従事者等とかかわっており、養護教諭が他者と関わっていく時にはコミュニケーションが必要であることを理解する。
【キーワード】	救急看護の過程 判断、処置・看護、保健指導、安全教育・安全指導 コミュニケーション
【学習の課題】	どの過程も養護教諭一人だけではなく他者がかかわっていることを理解する。
【参考文献】	杉浦守邦『学校救急処置マニュアル』東山書房、1979 岡美穂子・松枝睦他『養護教諭の行う救急処置—実践における「判断」と「対応」の実際—』学校保健研究 53 2001 小倉学『個別的保健指導の進め方』東山書房、1981 内山源『学校保健・養護教諭の救急活動における行為とコミュニケーションの問題と改善』茨城女子短大紀要 38 2011 中村朋子『救急活動時のコミュニケーションのあり方』心とからだの健康 13 8 14-18 2013 バザール・ライリー 渡部富栄訳『看護のコミュニケーション』エルゼビア・ジャパン、2007
7. テーマ	学校看護における判断の視点① 医学的・医事的判断
【学習の目標】	養護教諭は傷害や頭痛腹痛等具合が悪くなった時の症状から、解剖学・生理学、病理学、各疾病の症状・鑑別診断学等の知識を基準にして、受診など緊急を要するもの、帰宅して保護者にまかせるもの、保健室で安静・休養させるもの、保健室で応急手当てのみで済むもの等を判断していることわかる。
【学習の内容】	主訴や随伴症状について判断の方法は視診等の観察、問診、検診（体温・脈拍・呼吸・血圧等の測定）、触診等により、症状の軽重を明らかにして、対応を決めている。判断を正しくするには症状から考えられる診断名の学習が欠かすことができない。また、慢性疾患を抱えている場合は、個人ごとに急変した時どのような症状が発現するかを知っておくことが必要である。判断を誤れば、その後の対応も誤ったものになってくるので医学的・医事的判断は大切なものであり、医学的・看護的専門知識を持っている養護教諭に最も期待されていることである。しかし、けがした当初、微症状であったり、本人が自分の症状を正しく伝えられなかったり、症状を大げさに言ったり、隠したり、そばにいた担任や部活動の関係者などが症状を見落とし、過少評価して、判断したりすることもあり養護教諭の判断が受け入れられない場合もある。どうすれば間違いのない判断ができるか考察する。どう対応するか判断することも大切である。
【キーワード】	医学的・医事的判断 フィジカル判断 主訴 養護教諭の判断。他者の判断
【参考文献】	荒木田由美子・池添志乃他『初心者のためのフィジカルアセスメント』東山書房、2008 三村由香里・松枝睦他『養護実践のための頭部外傷チェックリストの提案』日本養護教諭教育学会誌 11(1) 2011 岡田加奈子・葛西敦子他『養護診断「心理的な要因が存在する可能性のある状態」の診断名と診断指標の開発』 日本養護教諭教育学会誌 10(1) 20-37 20
【学習する上での留意点】	精神・心理状態、社会的側面からみた健康状態の文献はあまりない。各自検討してほしい。

8 . テ ー マ	学校看護における判断の視点② 非医事的判断
【学習の目標】	主に他者が傷病の軽重や対応の判断を症状等医学的・医事的なこと以外で判断することを理解する。
【学習の内容】	授業・教育優先、経済的、宗教的なこと、部活動優先、管理者の行政的なこと等で症状以外のことで受診や帰宅、休養等のことを判断し、養護教諭の判断や対応が変更されることがある。例 担任は教育を優先して保健室での休養を認めない。痛みを我慢して授業を受けさせることが自信につながると無理に体育をさせる。保護者は経済的な理由で、宗教的な理由で受診を認めない。管理職は後で何かあって保護者から苦情が出ないように軽傷でも救急車を要請する。本人は部活を休むとレギュラーから外されるので無理に無理な練習をする等。養護教諭と他者がコミュニケーションをとり、けがや疾病をした本人にとって何が善いか判断する。
【キーワード】	非医事的判断、症状以外の教育的、宗教的、経済的、行政的判断
【学習の課題】	雑誌等から非医学的判断をした事例を収集し、レポートを提出する。
【参考文献】	中村朋子・内山源『学校救急活動における養護教諭の判断と非医事的判断による問題点』安全教育学研究 5(1) 2005 内山源：ヘルスプロモーション・学校保健 第8章学校救急事態における非医学・非医事的判断 家政教育社 2009
9 . テ ー マ	学校看護における判断の視点③ 倫理的判断
【学習の目標】	1) 判断の対象者、判断者、判断の過程、判断の種類 判断を円滑にする方法を考察する。 2) 判断の基礎となる倫理的判断について理解する。
【学習の内容】	1) 判断の対象者は5回で述べた。養護教諭だけでなく、本人や担任等救急事例に関った他者が関与する。程度が軽い場合は養護教諭と本人で済むが、重症ほど、いろいろな人が判断に関わってくる。判断の過程は6回で述べた。受診させるかどうか、帰宅させるかどうか、休養か授業に出るか、部活動の参加等必ずしも養護教諭の判断が優先されない。判断の種類には倫理的判断、医学的・医事的判断、非医事的判断がある。(7、8回) 2) 倫理的判断は救急看護だけでなく、養護教諭の活動すべてに考慮しなければならないことである。判断者は常に児童生徒にとって何が善き判断か、正しい判断かを考えることが必要である。倫理の原則として一般に無害、善行、自律、公正・正義、誠実・忠義などがあり、それらについて学習する
【キーワード】	判断者、判断の過程、判断の種類、組織的意思決、倫理的判断、倫理の原則
【参考文献】	中村朋子『学校救急看護の課題—養護教諭の判断を中心に—』日本養護教諭教育学会誌.18(1) 25-30 2014 鎌田尚子・中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)作成と共通理解をめざして』日本養護教諭教育学会誌.14 (1) 2011 鎌田尚子・中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)の理論的・実践的意義』日本養護教諭教育学会誌.16(1) 23-36 2012 服部健司・伊藤隆雄『医療倫理学のABC』メヂカルフレンド社、2004 J.Davis 小西恵美子他訳『看護倫理を教える・学ぶ』日本看護協会、2028
【学習する上での留意点】	救急看護の判断は養護教諭だけでなく、本人や周囲の人々が関与していることを学ぶ。
10 . テ ー マ	学校看護の管理運営① 救急看護計画と教職員の役割
【学習の目標】	救急看護を円滑に行うために学校内での管理・運営として養護教諭はあらかじめ救急看護計画を立てて教職員に周知徹底しておくことを復習する。
【学習の内容】	1) 学校内の教職員の役割 2) 救急連絡体制(受診に備えて医療機関や主治医等)を明文化しておく。 3) 担任、保健主事、部活の関係者、保護者等誰が、どんなことを誰に連絡するか、救急連絡体制はどうなっているか学習する。
【キーワード】	救急看護計画 教職員の役割、連絡体制 医療機関の選択
【学習の課題】	このテーマは多くの参考文献があるので、救急体制について収集し、それらを参考にし、小、中、高どれかに校種を決め救急体制を作成し、事例を当てはめ、検討したレポートを提出する。
【学習する上での留意点】	
11 . テ ー マ	学校看護の管理運営② 施設・設備、予算
【学習の目標】	救急看護を円滑に行うには救急処置や看護に使用する備品・救急薬品・衛生材料が必要である。慢性疾患児童生徒の急変に備えて必要な消耗品や備品の準備、休養などに必要な保健室の施設設備等を理解する。それらを十分に確保するための予算について理解する。
【学習の内容】	必要な備品・救急薬品・衛生材料を学校医・学校薬剤師と相談して準備していることを学習する。慢性疾患の急変に備えて準備しておくものは主治医・保護者と連携して決め、管理しておく場所も決めておく。
【キーワード】	救急薬品・衛生材料、保健室の設備、備品 予算
【学習の課題】	救急看護を行うために保健室の設備(ベッドや寝具類等)配置をどのようにすればよいか校種、規模を考慮し、配置図を入れたレポートを提出する。
【参考文献】	中村 朋子・内山源他『学校保健・養護教諭の活動と予算に関する調査研究』茨城大学教育実践研究 15 191-206 1996 内山源『ヘルスプロモーション・学校保健 第9章 学校保健活動と予算の条件』家政教育社 2009
【学習する上での留意点】	救急看護だけでなく学校保健活動を行うためには予算が必要なことを理解してほしい。
12 . テ ー マ	学校看護と地域専門機関との連携(医療機関、福祉機関、行政との関わり)
【学習の目標】	救急看護を円滑に進めるには学校外の要因(外的事項)である地域の医療関係・福祉施設、行政に関連する法律・制度、カリキュラムなどがあることを考察する。
【学習の内容】	救急看護で受診する場合の医療機関や福祉施設などの利用の仕方を学習する。救急看護が十分に実施できるためには学校保健法だけでなく医師法・助産師法等多くの法律が関与する。また、事故が発生すれば法的責任が発生する場合もある。養護教諭養成の中で、看護や救急看護のカリキュラムをどうすればよいか検討する。
【キーワード】	救急看護を円滑に進めるには関連する学校外の要因(外的事項) 法律、制度 養成課程のカリキュラム、学校事故
【学習の課題】	救急看護が円滑に行くには学校内(内的事項)だけでなく学校外の要因があることを理解する。
【参考文献】	中村朋子・内山源：学校保健における救急処置・看護の問題点と外的事項・法制度への改善へ 茨城大学教育学部紀要 46 233-253 1997 内山源『ヘルスプロモーション・学校保健 第11章 学校保健活動の改善、推進と養護教諭の人事』家政教育社 2009 中村朋子・内山源『学校保健・管理行政における養護教諭の人事に関する問題とアドボカシー』東邦学誌 39 (1) 2010

	福田博美・中村朋子他『教育学部養護教諭養成の看護系科目の卒業生の学習ニーズ』学校保健研究 45(4) 2003 入沢充『学校事故 知っておきたい！養護教諭の対応と法的責任』時潮社、2009 児玉悦子・鈴木世津子『学校事故から子どもを守る 判例に学ぶ教師の実践マニュアル』農文協、2006 鈴木路子・関口恵美・原千恵子他『公衆衛生看護ノート』教育新聞社、2014
13、14.テーマ	事例分析 ①日常的な症状への救急処置 ②慢性疾患を抱えた児童生徒の急変時の対応
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	救急事例の記述をする時の観点を理解し、レポートにまとめる。 各自のけがや疾病異常の経験、養護実習での経験、あるいは友人の体験や文献から、①傷害の事例 ②疾病異常・医療的ケア必要とする救急事例について、これまで学んできた学習の内容を取り入れレポートにする。そのレポートをお互いに読みあい事例を共有する。意見、疑問点等批評する。それらを参考に新たな課題を含めて検討し、再度、改善されたレポートを提出する。 14回で最終報告の発表をする。 けがや疾病異常の事例 事例の記述 お互いの事例を批判的に読むことができる。 中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)を活用した実践事例の検討』第21回日本養護教諭教育学会大会 88-89 2013 中村朋子『救急事例の対応について学生が学んだことー養護実習中の事例を通してー』第6回日本養護教諭教育学会大会 40-41 1998
15. テーマ	まとめ
	1・2回の授業で学校看護の課題について検討してきた。それらの課題が授業を通して解決したか、残された課題やさらに新たな課題について話し合う。文献の読み方や、レポートの書き方ができるようになったかまとめる。